



第0回 出版協ブックフェス 参加社一覧とイチオシ本



あけび書房は1983年創業。中心分野は貧困問題、社会保障・福祉、戦争・被爆の語り継ぎ、メディア問題。「読者が主人公」「誰のため何のために出版するのか」を根っこに据えた「あけび憲章」と共に歩んでいます。イチオシは雨宮処凛著『**生きづらい世を生き抜く作法**』です。「あなたのやるせなさにも効く言葉、きっとあります」と著者は訴えます。時代を見据え、肩の力を抜いて、自分を大切に…。悩める人、困っている人に寄り添った、優しさと力強さ満載のエッセイ集。



凱風社は、日本を取り巻く東アジア（韓国、台湾、沖縄）の諸問題を皮切りに現在は地域にこだわらず、どちらかといえば新聞等ではあまり報道されない、近現代の歴史書、社会書、文化関連書を「読者目線」で発信しています。平和的生存権とは何かが柱です。負の世界遺産「アウシュヴィッツ強制収容所」の全貌を、日本人では同館唯一の公式ガイド、中谷剛さんが著した『**アウシュヴィッツ博物館案内**』は信頼性の高いロングセラー。現代奴隷制を素材にグローバル資本主義の不条理をつくK・ペイルズ三部作もお薦め。



解放出版社「人の世に熱あれ、人間に光あれ。」と謳った水平社宣言からもうじき百年、解放出版社は差別に抗う文字と言葉を世の中に発し続けています。フェスでは反差別・人権・平等の視座から様々な本を紹介いたします。イチオシ本は『**焼き肉を食べる前に**』。屠場で働く人の気持ち知っていますか？ 生きた動物の肉体が職人たちの手で食べ物になっていく。「普通の仕事」、職人たちは言った。絵本作家の感性で捉え綴り描かれた世界は、職人たちの仕事への思い喜び悩みを丹念に伝える。



海鳴社 ちょっぴり自慢できるのは——高校の物理教育を一新したと自負しているもの（『川勝先生の物理授業』3巻）、理数系の独学書（村上雅人著「なるほど」シリーズ19巻）、縁あって合気道関係書など。最近の一押し本は『**人体5億年の記憶**』、二押しは『銀河宇宙観測の最前線』、三押しは『漱石の個人主義』。いずれもここ三カ月内の新刊。『人体…』は、養老孟司氏や茂木健一郎氏が絶賛。『銀河…』は「天文月報」連載／大好評。



共和国は、「世界を書物でロマン化します」をモットーに、2014年に樹立された個人出版社です。取引代行はトランスビュー。文化批判的な本がメインです。今回は在庫僅少本を中心に販売します！共和国の本は全点イチオシ。1点だけを選べませんが、今回は、「食」という人間の根源的な領域が、カマドの時代からナチス政権下のように収奪されたのかを論じた、藤原辰史著『**【決定版】ナチスのキッチン**』を。これは遠い異国の過去の話ではありません。



現代書館 今年7月1日、創立50周年。「知識を専門家だけのものにせず、いかに分かりやすく伝えるか。さらに誰も出さないけれど、これぞ！」を原点に続けてきました。今後もあらゆるジャンルに鋭いメスを入れていきます。お薦め本は、『**義理回状の研究**』（猪野健治アウトロー論集・補巻）。日常見ることの出来ない「ヤクザ社会」の襲名披露・葬儀等の「義理回状」。その実物のオールカラー写真集。ずばりヤクザ社会の実態に迫る貴重な一冊。



現代人文社は、「人権」に視座を据え、刑事弁護、刑事法分野を軸に出版しています。さらに、平和と憲法、外国人の人権、ジャーナリズム、教育、脱原発など、読者と共に社会のあり方を考えるテーマにも挑戦しています。イチオシは、『**なんで、「あんな奴ら」の弁護ができるのか？**』。すべての刑事弁護人は、家族や友人からこの“お定まりの質問”を受けるが、正しい解答はない。15人の弁護士が、簡潔にかつ力強く、「あんな奴ら」を弁護する理由を語っている。



合同出版 創立以来、〈生命・環境・平和〉を「知り・考え・行動する」ために役立つ本を刊行することを社是にしています。いまこそ知が試されるとき！イチオシ本は『**日本会議とは何か**』（上杉聰著）。主要閣僚の大半が日本会議のメンバーであるという安倍政権の特異性は、その国家主義的政策となって顕現している。明治維新150キャンペーンを目論む彼らの意図が可視化されるオススメの本。



こぶし書房は、社会科学・人文などの専門書を中心に、最近では農業や食べもの、自然科学にかんする読み物など新しい分野にも挑戦しています。今回のフェスでは、好評の新刊ふくめ幅広くご紹介いたします。イチオシ本は、写真家・樋口健二さんの『**忘れられた皇軍兵士たち**』。天皇の名の下に戦争に駆り出され、負傷し精神に障がいを負って帰還した兵士たちの姿を伝えます。再び戦場で犠牲者が生み出されようとしている今だからこそ出版しました。



コモンズは、経済成長優先のあり方を根本から問い直し、格差や差別のない本当に豊かな社会を創るための思想と実践を伝える出版社。主なジャンルは「社会と環境を考える」「新しい農のかたち」「アジアを知る・歩く」。イチオシ本は『**自由貿易は私たちを幸せにするのか？**』（上村雄彦・首藤信彦・内田聖子ほか）。環境や人権を守り、貧困・格差を是正する、正義に基づく公正な貿易ルールをどう創り出すか。内外の研究者やNGOリーダーたちによる鋭い分析と提案です。



彩流社 創業から人文・外文书籍等を刊行し、近年では、落語や絵の描き方の本などと、分野に広がりが出てきています。今回は、その広がり添って僅少本からロングセラーまでご紹介したいと思います。巨大高層コンクリート・スラムの内部に入り、その姿を写真した宮本隆司の写真集『**九龍城砦**』。彩流社では、20年ぶりにこの写真集をデジタルリマスター版にて復刻します。在りし日の城砦の詳細が、全点断ち切りによる大胆な迫力あるレイアウトで甦ります。



三一書房は1945年に「反戦」、「反差別」、「反権力」を社是に創業しました。2017年、ふたたびこのテーマが重要な時代を迎えています。自由で暴力支配のない世界を実現するための出版活動を続けます。イチオシ本は『**にじ色の本棚-LGBTブックガイド**』（原ミナ汰&土肥いつき編著）。「多様性」を生きてきた人々が育んだ、豊かな歴史や文化を知るために…ジェンダー・セクシュアリティに関するノンフィクション、コミック、小説、社会・歴史書までを紹介。



三元社は創業30年。遅々たる歩みですが、言語・歴史・思想・文学・美術・芸術等人文系専門書、初学者向け入門・啓蒙書を中心に刊行し「知」の一次産業たるべく奮闘中。直近ではノルウェーの絵本も。イチオシ本は『**芸術の終焉のあと：現代芸術と歴史の境界**』（ダントー／著、山田忠彰／監訳）。巨匠のナラティブによって芸術を定義しうる時代が終わったポスト・ヒストリカルな現代に可能な美術評論の原理とは？ 芸術とはなにかを探究した予言的著作。



自然食通信社「食べものと暮らしをあなたの手に」。今いる所から踏み出す一歩を探りつつ読者と共に36年。プーメランのように送り手に返ってくる問いかけに身を引きしめながら少量生産の本づくりを続けています。イチオシは『**野草の手紙**』。わずかな草とそこに生きる虫たちの目線に降りたとき、ファン・デグォンの内面に変容が訪れた。無実の罪に問われながらも刑務所での暮らしを軽やかなユーモアにのせ、小さな命を通して見出した気づきの日々を妹にしたためた珠玉の一冊。



社会評論社は、時事問題に取り組む活動記録、評論、学術書、ルポルタージュほか多岐に渡る図書を発行。市民の立場から世界を見る面白さがつまった本作りを心がけています。イチオシ本は、瀬瀬厚／著『**権力者たちの畏れ 共謀罪・自衛隊・安倍政権**』。「反テロ、安全、平和」などという名称を開いた法律に対しては警戒しなければならない。こうした誰も反対できないネーミングこそ、権力者たちの畏れ。



第0回 出版協ブックフェス 参加社一覧とイチオシ本



不知火書房 1988年設立、今年で30年目の福岡市の出版社です。取次-書店流通は、地方・小出版流通センター経由です。地方小が7月からアマゾンとの取引を止めたことで、小社の本もアマゾンでの購入はできなくなりました。イチオシは『**素朴な疑問 食品の裏側から**』サブタイトル《暮らしの中の添加物・調味料入門》とあるように「できるだけ食品添加物から離れた食卓を実現したい」読者に向け、その知識、食術、心構えを説きます。『食品の裏側』正・続累計80万部の安部司氏の最新刊。



新宿書房は「誰も書かなかった、誰も出さなかった」テーマを求め、日常の重層を探查。今回は最新刊の本、宇江敏勝の本、品切れ本、在庫僅少本、そして社内兄弟出版社エディマンのイチ押し本を並べます。最新刊『**さきちゃんの読んだ絵本**』は不思議な小説。老若男女だれでもが、なんだか懐かしく、ちょっぴり切なくなる12のエピソード。エディマンの『フジタの白鳥』は画家藤田嗣治の知られざる舞台美術の貴重な研究書。必読です！



新泉社は人文・社会科学書を中心に出版を続け、今年で50周年を迎えます。これからも、歴史と現在を問う、小粋な出版活動を続けていきたいと思えます。イチオシは『**宇井純セレクション**』全3巻（新泉社）。公害との闘いに生涯を捧げた環境学者・宇井純が遺した現代社会への切実な問いに溢れた文章を厳選した本コレクションは、私たちが直面する困難な問題に取り組む際につねに参照すべき書として編まれたものである。



知泉書館 「世間の常識は小社の非常識」かもしれません。しかし私たちは、人びとが真に豊かな生活を享受し、世界の平和や福祉に貢献するために、学術文化の一層の発展と交流こそが有効な道であると信じています。『**北朝鮮経済史1910-60**』この本には真実が書かれていますが、それ故に読まれません。1910年に日本の統治下になってから、朝鮮半島の経済はどう推移したのか。植民地支配の中、実際の経済活動を膨大な資料により公平・冷静に分析した結果とは？



筑波書房 農業・食料関係書を中心に生活文化の向上に役立つ書籍を数多く出版しています。専門書が主流ですが、農業・食料関連をよりわかりやすくしたブックレットなども出版しております。一押し書籍は『**ワインの“鬼” 「有機葡萄」六十年の軌跡**』。日本で初めてブドウの有機・無農薬栽培の方法を確立し、国産ワインの開発に成功した故・澤登兄弟のワインづくりの軌跡をたどる。ワイン研究家の筆者による世界のワイン事情や課題も知れる。



南方新社 鹿児島に拠点を置き、九州・琉球関係、昆虫・植物・貝・魚の図鑑等を出版。今注目の、最悪外来種ヒアリと、アカカミアリを日本で初めて詳細図解した『**アリの生態と分類**』を7年前に刊行。好調出荷中です。『**毒毒植物図鑑**』はロングセラー『野草を食べる』の姉妹版。この春も、野草を食べるはずが毒草を食べたという中毒事故が相次いだ。カブレラトゲに注意すべき植物も含め192種を収録した。野外活動の基本書中の基本書。



パイ インターナショナルは、デザイン・アートを中心に、おしゃれて、気持ちよく、新鮮な出版を目指しています。背表紙にPIEのロゴが目印。今回のフェスでは芸術の歴史に関する本を多めにご紹介致します！イチオシ本は、『**日本の色のルーツを探して**』（解説・監修：城一夫）。日本古来の神々の色、陰陽五行説の色、雅な平安の色、粋な大江戸の色彩から、昭和の流行色まで、豊富なビジュアルとともに日本人の色彩感覚のルーツを辿ります。



晩成書房は、「演劇」と「教育」という、ちょっと水と油のような印象の二分野を結んで、子どももおとなも演劇に出会うことで元気に、クリエイティブな感覚やコミュニケーションの感覚を養えるような図書の出版を続けています。イチオシは『**インプロゲーム**』（絹川友梨著）。元々は即興劇俳優の訓練用に作られた表現ゲームですが、ことばとからだの表現やコミュニケーション感覚を楽しむゲームとして、子どもから大人まで幅広く活用されているロングセラー。



批評社は、1978年9月創業です。2018年で満40年を迎えます。精神保健・医療・福祉（雑誌「精神医療」ほか）を中心に歴史民俗学、経済学など多様なジャンルに挑戦する出版社です。『**第三帝国と安楽死**』は、ナチスによって行われた「安楽死」という名目による精神障害者への迫害を鋭く告発。「医者が自らの職務として患者を殺害していくという残酷で悲惨な状況～精神病院は治療の場ではなく殺害の場と化したのである（監訳者あとがきより）」



ペリかん社（1963年創業）は、思想史・国文学・美術史を中心とした人文科学の教養・専門書と、資格・就職、キャリア教育関連の実用・一般書（「なるにはBOOKS」等）の出版社です。イチオシ本は、新刊の『**朱子学から考える権利の思想**』（下川玲子著・本体2200円）です。前近代に東アジアの普遍を担ってきた朱子学思想と、西洋近代の権利の思想の親和性に着目し、現代社会における伝統的思維の可能性を探る意欲的論考です。



本の泉社のモットーは「21世紀を生きる人と社会に役立ち、感動を共有できる本づくり」。『日本の科学者』『ゆたかな暮らし』『作文と教育』『子どものしあわせ』『理科教室』など11の定期誌を発行しています。川村俊夫著『**日本国憲法はこうして生まれた**』は、日本国憲法の制定経過、日本国民や国際世論の動向も含め立体的視点で検証。今日の改憲の企てを許さないための手引書です。その他おすすめは『現代の災害と防災』『原発より危険な六ヶ所再処理工場』など。



木犀社はアジアやユーラシアの文化を中心に、一般書・人文書・文学書から学術書まで広いジャンルの本を、丁寧な編集と美しい造本を心がけて出版しています。東京から信州松本市に移転して4年、今年で創立30周年を迎えました。イチオシ本は、『**単独者のあくび 尾形亀之助**』（吉田美和子著）。中原中也、吉田一穂に並ぶ「絶対詩人」尾形亀之助。みんなとあくびをしても彼はひとりであくびをしたい（草野心平）と評された自由人。反権威の姿勢を貫きとおした詩人の傑作評伝です。



唯学書房は、2004年に創業した、社会科学・人文科学分野の専門書出版社です。クリティカルな研究書を中心に、最近では発達障害の書籍のシリーズにも力を入れて出版を行っています。イチオシ本は、『**発達障害の子どものためのお仕事図鑑**』（梅永雄二他監修）。本書は、発達障害の子どもたちが、お母さんやお父さんと遊びながら、「やりたい仕事」を見つけられるスグレモノ！ 巻末付録には「お仕事カード」48枚付！



リベルタ出版は、「Liberta」（自由、気まま）を旨とする究極の零細出版者。メディア、環境、原発を中心に「空気を読ま（め）ない」本ばかりを出版しています。イチオシ本は何と言っても『**メディア・リテラシー：マスメディアを読み解く**』です。日本のメディア教育の礎を築いた「古典的名著」で、もうかれこれ4半世紀も売られています。



緑風出版は1982年創業、社名はエコロジーの風を巻き起こしエコロジカルな社会をめざす本を出そうとの理念に由来します。「現代を探検する」緑風出版は、現代の社会・環境問題に切り込みます。イチオシ本は、『**JRに未来はあるか**』（上岡直見著）。国鉄が分割民営化され、1987年JRが発足。あれから30年、JRは赤字を解消して安全で地域格差のない「利用者本位の鉄道」に生まれ変わったのでしょうか？